

第3回 常呂川堤防調査委員会

議事要旨

1 日時；平成29年 3月 2日(木) 14:00～17:00

2 場所；北見河川事務所 1階会議室

3 常呂川堤防調査委員

渡邊 康玄（北見工業大学社会環境工学科教授）

川口 貴之（北見工業大学社会環境工学科准教授）

林 憲裕（寒地土木研究所寒地地盤チーム上席研究員）

矢部 浩規（寒地土木研究所寒地河川チーム上席研究員）

4 議事概要

- ・堤防が被災した柴山沢川と日吉30号樋門付近における調査結果について、概ね理解が出来た。
報告書を纏めるまでには、土質試験結果の精査をしておくこと。
- ・数多く見られた噴砂については、長時間にわたる高い外水位の影響により、噴砂基盤の水が圧力伝播によって、緩い箇所を3次元的で網状に水が流れ、表土の薄い箇所など、地質的な弱部からあふれ出すというメカニズムであると考えられる。
- ・堤防の被災については、様々な要因が絡み合いその被災状況に違いがあると考えられる。そのため、今回の教訓を活かせる様に過去の事例や今回の事例も含めデータを蓄積し整理していくことが重要。

- 以上 -